

田辺市における学生の活動 ～海の家「KU CAFE」の運営～



関西大学の連携協定締結先である田辺市において、地域のさまざまな個人・団体の協力を得ながら、学生が中心となって海の家「KU CAFE」を運営しました。

海の家「KU CAFE」にてゼミ生たちと

活動の概要

目的	田辺市の豊富な資源を活用した地域活性と人材育成
連携メンバーおよび役割	田辺市役所…学生への地域連携活動全般に関する指導・助言 田辺観光協会…学生への指導・助言 / 協力者の紹介 南紀みらい株式会社…学生への海を家の経営に関する指導・助言 関西大学人間健康学部 安田忠典ゼミ…海を家の運営 / 地域住民との交流
活動地域	扇ヶ浜海水浴場 (和歌山県田辺市)
活動期間	2016年～(継続中)

連携の経緯

安田は和歌山県田辺町(現・田辺市)出身の民俗学者・南方熊楠の研究を通じて、旧来から田辺市と親交を持ち、学生による熊野古道調査や現地ツアー調査、堺市と連携した熊野本宮子どもエコツアー(前ページ参照)など、田辺市をフィールドにさまざまな活動を継続的に行っていた。その後、田辺観光協会との縁が生まれ、ゼミで市の祭りに参加したことが契機となり、海を家の運営を通じた地域活性化に取り組むこととなった。



学生のセンスで工夫を凝らしたメニュー

売り上げの秘訣は弾ける笑顔です

解決すべき課題

- (1) 海の家を運営する人的資源の不足
- (2) 海を家の運営を通じた地域活性

大学の役割

田辺市と関西大学は、長年にわたる安田の教育研究活動を基盤として、2016年1月に連携協定を締結。連携協定締結前から、熊野本宮子どもエコツアーや市内の森を借り上げて行う野外活動実習等、同市の資源を活用した多様な活動を続けている。

本事例は、それらの連携活動の内、ゼミ生が海の家を30日間運営する活動を中心に紹介するものである。海の家は、南紀・熊野を元気にするまちづくり会社「南紀みらい株式会社」が運営するもので、田辺観光協会の紹介を受け、本活動期間中はゼミに無償貸与されることとなった。店舗のコンセプト・メニュー・仕入れ・経理・シフト等は、同社の助言の下、ゼミ生が中心となり行い、2016年はハワイアンをテーマとする海の家「KU CAFE」としてオープンした。また、同じく田辺観光協会の仲介で、期間中の学生の拠点として民家も無償貸与され、毎晩のミーティングで気づきを情報共有するなど、より良い運営の試行錯誤を重ねた。

また、活動期間中は閉店後に田辺市役所の関西大学卒業生との交流や地元のお祭りへの参加など、幅広い交流が生まれた。

期間終了後には大学コンソーシアム大阪が主催する「地域連携学生フォーラム」において「体験学習法を基盤にした地域連携活動」をテーマに成果発表を行うなど、地域活性と人材育成の両面で意義深い活動となった。

成果

- (1) ゼミ生が主体性を持って海の家を運営
- (2) 大学と地域のネットワークを強化
- (3) 体験学習法を通じて学生が成長

今後の展望

- (1) 田辺市との地域活性と活動を通じた人材育成を継続的に実施
- (2) ゼミの枠に留まらない連携活動の展開

研究者の紹介



人間健康学部 准教授
安田 忠典
(やすだ ただのり)

人間健康学部では、レクリエーション、ファシリテーション等のトレーニングをしている明るくユーモアあふれる学生たちが、実際の経験の場を求めています。そんな若い力を求めている現場とコラボできます！

現場の声

- ・南紀みらい株式会社 濱田氏
「日々運営するメンバーが変わるにもかかわらず、よく情報共有してやってくれた」「明るい雰囲気です民の人にも好評だった」
- ・田辺市観光振興課 竹中氏
「天候や営業期間などの問題もあったが、うまく回してくれた」「来年度は新たにスポーツイベントなども協力してやれるといいよね！」